

とよかぜ

No.19



6月 花と野菜の水やり



「決め手になったこと」

看護部長 邑井 雅和



定年退職された岡田総師長のあとを引き継ぎ、4月1日付けで新たな役名をいただき、看護部長として着任しました。まだ新米ですが、ただいま看護師確保の困難さを痛感しています。看護師確保に関しては、あらゆる病院・施設が同様の悩みを抱えています。参考になる打開策にはいぞお目にかかりません。そこで、私が整肢学園に就職をしたときに、その決め手になったのは何であったかを思い出して見ました。

10年前のことです。岡田総師長に園内を案内され、ある病室に入ったとき、畳の上に横臥していた子と目が合いました。その子は私が挨拶をする前に、顔を上げてにつこり笑ってくれました。言葉の出ない子でしたが、とても可憐な笑顔でした。その瞬間に決めたのです。「この学園にお世話になるう」と。

岡田総師長が就職を決めたきっかけは、見学の時に3人の入園児達から「お姉ちゃん、ここに来て！」と言われたからだと聞いています。また、当センターで看護体験をされた方の多くが「コスモス棟の入園者の笑顔に心がなごみました」「さくら棟の元気いっぱいな子ども達の姿を見て、障がい児のイメージが変わりました」と感想を述べられます。そして、そのように話された方はたいがい後日センターの職員になっています。私をはじめとして、子ども達の不思議な魅力に触発され就職を決めた職員がたくさんいるのだと思います。

先日、さくら棟で2人の子から「看護師さんを増やして下さい。私達もつと外出したり活動したいのに、看護師さんが増えないと出来ません」と苦情を言われました。ちょうどその日、看護体験をしていた女性がいいたので、2人に「お姉さん、さくら棟に来て！って言って「らん」とアドバイスをしました。素直な2人はその通り話し、その結果、2人の願いは叶いそうです。

「もっと多くの方に入園の子ども達の魅力に触れてもらうこと」看護師確保のヒントはそんなところにありそうです。